

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：32809

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12179

研究課題名(和文)性腺機能障害を有する思春期小児がん経験者の支援ガイドラインの構築

研究課題名(英文)Guideline for the support of adolescent cancer survivors with sexual and reproductive dysfunction

研究代表者

富岡 晶子(Tomioka, Akiko)

東京医療保健大学・医療保健学部・教授

研究者番号：90300045

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は性腺機能障害を有する思春期小児がん経験者の支援のためのガイドライン構築に向けた基礎資料を得ることを目的とした。国内外の専門職を対象にインタビュー調査を実施し、思春期小児がん経験者への支援における困難や課題、多職種との連携体制及び支援システムにおける課題が明らかとなった。それにより、思春期小児がん経験者の妊孕性温存に関する意思決定の支援、性に関する教育と情報提供、将来の生活をふまえた心理社会的支援及び家族を含めた支援のあり方について言及したガイドラインの策定案を検討した。さらに、看護職に対する教育支援の充実の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小児がん治療に伴う性腺機能障害は思春期になって顕在化することが多く、これらは小児がん経験者にとって生涯にわたる重要な問題となる。我が国においては、性や生殖に関する問題への支援体制が十分とはいえず、とりわけ思春期への支援は医療専門職にとっても困難となりやすい。欧米諸国では思春期若年成人期のがん患者・経験者の性の問題に対する先駆的な取り組みが行われており、日本においてもこれらの実践を参考にしながら我が国の文化背景に即した新たな支援体制の構築が望まれる。本研究では、性腺機能障害を有する思春期小児がん患者の支援における課題を明らかにし、ケアの質向上に向けたガイドライン作成のための基礎資料を得た。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to obtain basic data for constructing guidelines for the support of adolescent cancer survivors with sexual and reproductive dysfunction. We conducted interview surveys for nurses with experience nursing for adolescent cancer survivors. As a result, the difficulties and challenges in supporting adolescent cancer survivors, as well as the problems in the support system were revealed. We considered the drafting of the guideline that refers to the support of decision-making regarding fertility preservation, sexuality education and information provision, psychosocial support based on future life and support including family members. Furthermore, it was suggested that the education support for nursing staff should be enhanced.

研究分野：小児思春期がん看護

キーワード：看護学 思春期 小児がん経験者 性腺機能障害

1. 研究開始当初の背景

小児がんは、多剤併用化学療法や造血幹細胞移植などの集学的治療により、その生存率は飛躍的に向上し、5年無病生存率は8割に達している。一方で、小児がん経験者の半数以上が何等かの晩期合併症を抱えていることが報告されている。とくに性腺機能障害は思春期になって顕在化することが多く、疾患を克服し、大人になろうとする小児がん経験者のQOLを妨げる大きな要因となりうる。

思春期は、進路や職業の選択、親からの心理的な自立に加え、アイデンティティの形成という発達上の課題を有する。小児がん経験者は治療の影響を抱えながら、これらの課題を克服していかなければならない。海外における調査では、思春期・若年成人期にある小児がん経験者は、将来子どもを持つことや生まれてくる子どもの健康について心配し、ボディイメージや妊娠出産計画にネガティブな影響を受けたと感じていることが報告されている。がん治療に伴うボディイメージの変容や妊孕性の問題は生命に直接影響を及ぼすものではないが、自尊感情の低下やアイデンティティの危機にも陥りかねない問題となりうる。さらに思春期は、その発達上の特徴から、周囲の大人に不安を表出したり、相談することが少なく、将来に対する漠然とした不安を抱えながら成人期を迎えていることが推察されるが、その実態は十分に明らかとなっていない。

英国をはじめとする諸外国においては10代のがん患者を対象とした支援体制が構築され、多職種によるチームアプローチが展開されているが、我が国においては、がん対策推進基本計画においてようやく思春期若年成人期のがん患者への支援の充実が掲げられたところであり、思春期に特化した支援体制は十分に整っているとは言い難い。

思春期小児がん経験者への性・生殖に対するアプローチは、十分な配慮と心理面への支援が同時に行われる必要があり、多職種協働による支援体制の構築が求められる。さらに、幼少期発症では、将来に関わる問題は親を中心に情報提供がなされる現状にあり、親の認識や対処を把握し、親を含めた支援を検討することが必要となる。

2. 研究の目的

本研究は、性腺機能障害を有する思春期小児がん経験者への支援の実態と課題を明らかにし、思春期小児がん経験者の支援ガイドラインの基礎資料を作成することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 思春期小児がん経験者への性・生殖に関する問題と支援の実態について、思春期若年成人がん患者・経験者の支援に先駆的に取り組んでいる英国のサイコセクシュアルセラピストよりヒアリングを行った。

(2)(1)をもとに、日本における思春期小児がん経験者の支援の実態、看護師が感じる困難や課題を把握するため、思春期小児がん経験者の支援に携わっている小児看護専門看護師またはがん診療拠点病院に勤務する看護師を対象にグループインタビューを実施した。

4. 研究成果

(1) 英国における支援の実態について

英国ではがん看護を専門とした認定サイコセクシュアルセラピストが支援に携わっている。がんとその治療による性生活やパートナーとの関係に関する問題を抱える16歳以上の方を対象

とし、patient reported outcome measure(PROM)によるアセスメント、婦人科がん、乳がん、前立腺がん後の性の問題に対する簡易的認知行動療法(CBT)、webによるCBTプログラムによる支援の実践が行われていた。多職種によるサポートシステムでは、問題を抱えている若者がカウンセリングを必要とした際に紹介され、クライアントのニーズに合わせた介入が行われていた。また、パートナーも支援の対象となっていた。思春期においては問題が顕在化しにくく、性に関するコミュニケーションが困難となりやすい点は日本と共通であるが、英国ではクライアントのニーズが重要視され、治療部門のスタッフと連携しながら継続的な支援が提供されていた。日本では、未成年者の介入においては家族の意向が重視される傾向にあり、文化的な背景をふまえた支援システムの検討が必要であると考えられた。

(2) 性腺機能障害を有する思春期小児がん経験者の支援に関する看護師の認識

小児がん看護専門看護師またはがん診療拠点病院に勤務する看護師で思春期小児がん経験者の看護経験があるもの10名が対象となった。インタビュー参加者のうち、9名は看護師経験が10年以上、5名はがん看護経験が10年以上であり、7名が小児看護専門看護師であった。小児科では性や生殖の問題について子どもに説明するかどうかは最初に親の了解を得ることが前提となっていた。看護師は、不妊の可能性を子どもに伝えることを望まない親への介入を困難に感じ、妊孕性温存に関する本人の意思が尊重されていないことを課題としていた。10代の小児がん経験者は性成熟や性体験がさまざまであり、本人の理解や経験にあわせてどのように話をするか難しいと感じていた。また、看護師は性と生殖機能障害を有する小児がん経験者が納得して人生を歩むためにどのような支援ができるか悩んでいた。これらの結果より、性・生殖機能障害を有する小児がん経験者に対し、妊孕性温存に関する意思決定の支援、性に関する教育と情報提供、将来の生活をふまえた心理社会的支援、親へのアプローチのあり方、さらに思春期がん患者・経験者を支援する専門職に対する教育支援を充実する必要があることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Akiko Tomioka, Yoshiko Kudo, Mitsue Maru
2. 発表標題 Perceptions of nurses on care for childhood cancer survivors with sexual and reproductive dysfunction
3. 学会等名 3rd Global Adolescent & Young Adult Cancer Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	丸 光恵 (Maru Mitsue) (50241980)	甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・教授 (34507)	